

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296900083		
法人名	株式会社 健康第一調剤薬局		
事業所名	グループホーム こもれび (つつじユニット)		
所在地	静岡県磐田市二之宮東21-4		
自己評価作成日	令和元年6月27日	評価結果市町村受理日	令和元年7月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.nhiw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kanitsru&JiyosyoCd=2296900083-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和元年7月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物は明るく広く、フロア、廊下、居室などゆったりしています。1日の流れは概ね決めてあり、メリハリのある生活を送っています。認知予防に力を入れており、毎日工夫を凝らして行っています。車椅子の方も、歩行器を使用し歩行したり、手すりを持った訓練をやっています。毎月、行事担当職員が決まっており2か月前位から計画を立て、初詣、竜洋しおさいに行ったり、桜、つつじ、バラ、紅葉を観に出掛け季節感を感じたり、夏祭り、運動会、クリスマス会、寿司バイキング、おやつバイキングなど楽しみのある生活が送って頂けるように考えています。管理者が看護師であり、協力医の先生と連携がとれており、看取りもおこなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

竜洋のしおさい公園への外出は、昨年までは市の送迎バスが使っているが、今年からは刻みをする事で可能となりました。ですが開設から4年となり顕著に重度化が進んでいて本年はそれも難しくなり、外出すると3分の2が車いす利用となります。それでも「季節を感じて～」「リフレッシュ～」との想いを職員総意で実現させています。また新人教育も整い、週毎に「おこなったこと」「できたこと、課題点」「指導者コメント」「週の振り返り」「次週の目標」と細目を1枚のシートにまとめた丁寧な伴走が叶っていて、事業所の定着率や先輩職員のOJT力強化につながっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念はグループホーム内に掲示してある。職員の心得は休憩室に掲示してある。職員は今年の個人目標を立て、7月、12月、3月振り返り、管理者に提出しに面談の時話し合いをしている。	目標管理シートを活用した理念浸透が推進されていましたが、更に取組みを進化させてシートを変容させています。これまでは共有シートだったものが、本年からは個々に記載することで、意識を高めることにつなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練に参加した。又、地域の商店を利用している。秋祭りには、地域の屋台が施設内に入り、踊りを魅せてくれた。市民マラソンは、施設の前で応援した。ボランティアの方に慰問してもらっている。中学生の福祉実習も受け入れた。	「地域資源を活用する」という点においては「商店街で買い物しよう」「竜洋のしおさい公園に行こう」などを順次実現させています。しおさい公園には職員が下見に出て、訪問日や駐車場の確認を事前におこない、安全第一に進めている点も安心です。	今後は地域の保育園、幼稚園との交流が進むことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症とその家族が全国をマップして走るラン伴で磐田の中継所として利用者と一緒に応援した。管理者が掛川市で認知症の介護されている家族の会と女性の会の2回にわたり、認知症についての講話をした。その時実際グループホームでやっている対応の仕方を話した		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月に1回、民生委員2名、市介護保険課1名、包括支援センター1名、家族1名の方に出席頂き開催している。職員体制、苦情に対する取組、医療体制、1日の流れなど、毎回内容を変えて、報告をしている。	同じ建物内の事業所からも参加者を得て、「どうい活動をしているか」の報告とともに毎回テーマを用意しており、「認知症の症状」などについても話し合っています。特段投げかけなくても和気藹々とした雰囲気の中で全員参加の意見交換が叶っていると管理者は捉えています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月市に入居状況を報告し、事業所連絡会に出席している。2年に一回、市の実地指導が行われている。昨年11月に2回目の実地指導が行われた。2回とも、指摘事項なし、助言事項なしと評価して頂いた。市から介護相談員が訪問している。	運営推進会議には磐田市介護保険室、地域包括支援センター職員が毎回出席くださっています。また掛川市内の認知症家族の会に管理者が講話に出向いたこともあり、行政からの依頼に応えた実績もあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言を掲示し、施設全体で取り組んでいる。身体拘束に関する説明書、経過観察記録を用意した。事故のありそうな利用者は、カンファレンスを行い職員間で統一を図っている。身体拘束等適正化委員会を、3か月に1回開催して意識づけをしている。	身体拘束等適正化委員会は当初運営推進会議でおこなっていましたが、現在は単独開催としています。本件における年2回の職員研修会は定着しつつありますが、新入職員の研修が少し遅れていて急ぎ実施の予定です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設では、身体拘束について勉強会を開き、職員が周知徹底できるようにしている。利用者が入浴時は、観察し、内出血や傷に注意している。又、職員から報告をうけ確認している。介護記録には残している。入居者に対して、言葉遣いに気を付けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度は勉強したことはあるが、理解は不十分である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、本人と家族が施設を見学し、契約を交わす時も十分な説明を行い、理解、納得の上で契約を交わしている。加算を変更する時は、全家族に説明を行い、承諾書を頂いた後に変更している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、職員から家族に近況を報告している。面会、介護計画変更時家族から意見や要望を聞いている。相談、苦情として受付をし、カンファレンスを行い、解決案を出し家族に報告している。家族に対して依頼の一覧表を作っている。意見箱を置いている。	調査訪問時には職員の演舞披露に拍手喝采で応援くださる家族の姿を見ることもでき、またアンケートでも「誠意をもって対応してくれる」との言葉も挙がり、相談・苦情の根源を解決しようとする事業所の姿勢が実を結びつつあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は普段から職員の意見に耳を傾けている。職員は年2回自己評価表、悩みを記入し、提出している。その表をみながら管理者は年2回職員と本人の要望や意見を聞き個人面談をしている。事故報告書や毎日のミーティングで改善案を聞いている。	人事絡みの自己評価、面談もありますが普段からコミュニケーション機会を設けており、また管理者に直接進言する職員も少なくありません。各ユニット別の朝礼、16時からのユニット合同の夕礼が毎日重ねられ、情報交換が豊かです。	現在管理者が介護支援専門員を兼務していることもあり、今後はユニットリーダー養成を視野に入れていけると、なお良いと思います。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数の応じて給与の上乗せがあり、資格手当を支給している。昨年から定年を60歳から65歳に延ばした。時間外勤務がほぼない。個人面接の時、本人の良い所を話している。休み希望を聞いて全員希望通りにとれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内では、研修を毎月行っている。介護福祉士会より先生をお招きして勉強をする時がある。外部の研修に参加をしている。介護福祉士取得には、法人より実務者研修の費用の半分の補助がでている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は毎月、管理者と話し合いを持ち、施設内の困った事や職員について相談に乗っている。他のグループホームが同一法人になったので、少しずつ職員が研修に行き学んでいる。他の施設や介護で働きたい方の実習を受け入れている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は、本人の困っている事、不安な事、要望、入居前の様子を聞き、支援に結びつけている。入居時は本人の不安が強いので特に気を付けて対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時家族の困っている事、不安な事、要望を聞き、コミュニケーションを大切に何でも言ってくれる信頼関係作りに努めている。家族からも本人からもアセスメントする時、一つ一つ確認して。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向を聞き取り、その意向に沿えるような介護を心掛けている。サービスを導入する時、管理者と職員と担当者会議を行い、計画書に基づいて支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活のなかで洗濯物干し、洗濯物たたみ、テーブル拭き、食事の準備、コップ洗いなど本人の出来る事で役割をもって生活を送っている。毎月のレクでは、ケーキを作りなど入居者、職員一緒に楽しく作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来やすい雰囲気を作り、面会には沢山来てもらっている。面会時、家族との時間を大切にもらえるように居室にて過ごしてもらっている。毎月1か月の様子がわかるように、こもれび通信を発行している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、兄弟、友人、近所の方など面会に来ている。壁画にて、キーパーソン以外の方にも日常生活がわかるようにしている。面会に来ると見ている方は多い。行事にも家族に参加してもらっている。自宅に帰ったり、墓参りに行っている。外出、外泊、面会は自由。	家族や知人宛ての年賀状は恒例行事となり、そろばんや書道など以前からの趣味が続く利用者もいます。お気に入りの乳酸菌飲料やりんごジュース、黒酢などを愛飲するほか、珈琲に豆乳をブレンドする割合にこだわりを持つ人もいて、職員が随時対応しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置については気の合う利用者同士、状態の同じ利用者同士を隣席にしたり、トラブルがある時は席の配置を変えている。自由に席を移動し談笑する様子がある。話の少ない利用者には職員が声掛けを多くしている。全員が参加出来るレクを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した時はとてもよくやって頂いたと家族から感謝された。体調が良くなり自宅に帰った利用者が、2年経ち体調が悪くなり家族から入所出来ないか問い合わせがあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活の様子を聞いている。入居後、表情、行動、会話から感じた事は職員間で共有しケアにつなげている。定期的に介護計画書を作成前に本人と家族の要望を聞き、カンファレンスをし、本人に合った生活支援が出来るようにしている。	日記を書いたり、職員と世情を語って満足する人、新聞の定期購読等、其々にやりたいこと(ニーズ)はできています。入浴時や夜勤など1対1で話が聞けるときに新しい発見があることもありますが、掘り起し(ウオント)までには及んでいません。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの起床、就寝時間、職業、趣味、好きな事をアセスメントし、生活に取り入れている。今まで使っていた椅子やタンスなど使用している方もいる。食事前に挨拶をしてもらったり、縫い物が得意な方には雑巾やほころびを縫ってもらっている。入居前のサマリーを読んで把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設には、1日の流れはあるが、一人ひとりの病気や体力に合わせて臥床、離床している。夜間は居室の外にあるトレイは遠いけど居室にポータブルトイレがあれば排泄できる人はポータブルトイレに依っている。毎日バイタル測定しており、健康管理に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の意向を聞き取り、ケアマネと職員とカンファレンスを行い、意見を出し合い、介護計画書を立て、ケアに繋げている。モニタリングも本人と家族に話を聞いている。	実践者研修には意欲的に参加させており、開設から6名の計画作成担当者を輩出していますが、職員には本件に係る知識や経験に格差があります。事業所が1日2回のミーティングを設けていることで介護計画推進の補完となり、実践はつつがなくできているという状況にあります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は、日々の様子やケアの実践を記録し、職員間で情報を共有している。申し送りは、朝、夕2回行い、報告し、気づいた点は見直しをしている。さらに、変わった事は全職員に共有できるように連絡ノートに記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	発熱時は頻りに検温している。食事量が少ない時は、栄養ドリンクを飲んでいる。家族の要望で、お菓子を食べたり、ヨーグルトやヤクルト、黒酢、せんぶりを飲んだり、豆乳にコーヒーを混ぜて飲んでいる方もいる。おしゃれ靴を履いている方もいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公園や交流館に出掛けている。神社の初詣では近くの駐車場に止めさせてもらい、公園では、下見した時施設の職員から施設の近くに車を止めていいと言ってもらった。近くの公園に花見に出かけた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居と同時に協力医に変えてもらい、月1回定期的に往診してもらっている。協力医は休日、、夜間24時間対応できる体制を確保している。体調が悪い時は、連絡をし対応してもらっている。職員は全面的に協力医を信頼している。看取りも行っている。	毎月1回の訪問診療をおこなう協力医に全員が変更しています。なにかあれば駆けつけてくださる24時間オンコール、点滴等も手早く処置くださり、利用者のみならず職員、家族も大安心の医師で盤石な体制を整えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職はいつもと違つと怒った時は、24時間看護師に報告し、支持を仰いでいる。細かな事でも看護師に報告し、相談している。職場内に看護師がいるので洗腸など医療行為がいつでもできている。皮膚の状態は入浴時に看護師に診てもらっている。褥瘡の処置を毎日している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時は訪問し、本人の様子を聞いてくる。又、情報提供をしている。退院時は退院カンファレンスに参加し医師、相談員、看護師、理学療法士から情報収集している。市民病院の研修に参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期は、利用者、家族の思い、生き方を尊重し、家族と協力医と事業所は話し合いを持ち、本人、家族の希望と事業所で出来る合意の所で支援していく。協力医は、24時間対応できる体制をとっている。今年の看取りは亡くなる前に家族とお別れをした。	ここ半年の間に2名の看取りがあり、家族も管理者も泊り込んでと、大勢に見送られて昇天しています。医師も積極的に協力くださるため看取り加算も取得し、看取り後は職員にアンケートをとって、次につなげています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入所する時、全員に延命処置は望むか、望まないか、決めていないを選んでもらっている。看護師が職員に応急手当やAEDのやり方を研修で教えている。急変時は救急車を呼んでいるが、呼ぶか呼ばないか悩む時は、協力医又は施設長(看護師)に連絡して指示を仰いでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回磐田消防署立ち合いで利用者が参加し地震と風水害の避難訓練を行った。磐田市の福祉避難所となっている。昨年台風の被害で停電になり、施設では良い経験になった。ランタンを各自で用意してもらった。厨房と話し合いをした。	法定訓練は2回ともに消防署職員が立ち会い、「緊張感が足りない」「火元の傍で休んでいてはだめ」と叱咤激励されての指導を受けています。給食会議に合わせて食糧確保について等、厨房(外部業者)とも協議をおこなっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり性格も違い、抱えている不安も違うので、本人に寄り添った言葉がけを心掛けています。同じ事を何度もいったり、今した事を忘れますが、まずは否定せず、受け入れ、何度も説明をしている。排泄時トイレに鍵をかける方には、入らないようにしている。	階下にある事業所へリフレッシュとして遊びに立ち寄れる一方で、暴言があっても耐え忍ぶ職員の姿が日常にあります。また個人のトレーニング表が居室内ではなく共用空間に貼られていて、「本人が貼ったから外せない」との言葉に日頃の尊重が滲んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ希望に添えられるように心がけているが、時間が決められているものもあり、できないものもある。無理強いする事のないように、本人の意志も取り入れ入浴や臥床、就寝している。希望を聞いて行事担当が外出場所を決めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れがあり、皆と一緒にレクや運動をする時があるが、それ以外の時間は新聞を読んだり、テレビを見たり自由に過ごしている。その方のペースで生活出来るように昼寝したり、起きたり個々の対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性は、髭の手入れをし、女性は、化粧水をつけたり、眉を書いたりしている。本人の意志で服を選んでいる人もおり、毎日お化粧している人もいる。洗顔や服の着脱の介助を支援している。毎月美容師が訪問している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給仕、洗物を手伝ってもらっている。利用者全員でたいやきを作ったり、厨房から季節の行事食(おせち料理、恵方巻き、夏祭りの焼きそば、クリスマスの時キキ)魚の解体ショー、握りずしを握ってもらっている。ケーキを食べたり、おしゃべりやおやつバイキングをやった	1階にある厨房から食事が運ばれてきますがご飯と汁物は温かく、また利用者の中には慣れ親しんだ手つきでお茶碗に盛る手伝いに入る人もいます。厨房は季節を感じる行事食にも配慮があり、また職員もたい焼きやワッフルなどのおやつレクをおこなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	腎臓長、カロリー制限長、刻み長、フット長、下ロミを付けたり対応している。毎食とおやつでの摂取量、水分を把握し、食事の様子を観察し、体調管理をしている。食事が食べれない時、高カロリードリンクを購入してもらい飲んでいる。体重も毎月測定し管理している。スプーンや箸もその人の合う物になっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食が一人ひとり口腔ケアを行っている。出来ない方には一部介助、全介助を行っている。スポンジブラシを使っている、出来る方にも声かけをしている。入れ歯は洗浄液につけている。訪問歯科で治療している方もいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に行った時間を記録して、どのくらいの間隔でトイレに行くかわかるようにしている。ウロウロする様子からトイレに連れていっている。Pトイレは夜間のみ3台設置し、日中は使用していない。夜間、頻尿の方は眠れない為眠剤を内服しているが変わらず。	尿意がわからなくなり座布団まで濡らしてしまう人は時間でトイレに誘っています。他にも便が漏れてしまう人がいて、やはり本人が気づくことがないため、職員が目配り、気配りしての対応が続いています。	現在0.5人職員を増やした体制にあるのですが、今後症状がさらに進んだ場合職員が疲弊しないよう、メンタルヘルスを含み何らかの対策を構築することを期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、歩行訓練やランジオ体操を行い、腸の蠕動運動を促している。利用者は、それぞれ排便習慣があるので、回数、排便時間、性状など理解して、その人に合った介助をしている。便秘の人で朝、冷水を取ったり、ヤクルト、ヨーグルトをとっている。水分摂取は一日5回とっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	おおむね曜日、時間は決めてあるが、本人の体調や都合により変更したり、拒否のある時は無理強いせず、曜日を変更している。又、入るのを拒否する人に対しては、入りたくなるような言葉がけや入るタイミングを合わせている。状態により、器械浴、シャワー浴、清拭をやっている。	機械浴と一般浴の2つの浴室を持ち、ユニットに関係なく心身の状態に合わせた入浴ができるよう配されています。週2日を目安としています。本人の意向で柔軟に替え、また看取りでは清拭対応とし、時節風呂は柚子湯をおこなっています。	「収納場所がない」との理由から、脱衣スペースの足元に物品が置かれています。職員間で検討を重ね、是正につなげるよう期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境の整備(居室の温度、湿度、灯り等)安眠できるようにしている。寒い日は、エアコンを付けたり、あんかを入れたり、乾燥時は加湿器を付けたり、洗面所に水を張ったりしている。利用者の体調に合わせて昼寝したり、自分で就寝時間を決めている。ラジオを聞いている方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のカルテに薬の情報を入れ、副作用、用法、用量が見られるようにしている。薬の変更がある時は、職員全員にわかるように申し送りし、連絡ノートに書いている。個人の検温表の欄に薬の開始時期を記入している。薬は、同法人からもらっているの、薬の疑問は薬剤師に何でも聞いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で洗濯干しや畳み、縫い物など役割をもってもらっている。家族や施設で外出、外食し気分転換を図っている。家族が面会時嗜好品を持ってきて食べている。好き嫌いな物を聞き対応している。パンをやめ、ご飯で対応している方もいる。ボランティアの歌、踊りを楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣、花見、海をみたり、紅葉狩りなど季節を感じられるようにしている。外出時、自宅の近くをドライブすると色々な思いでの話がでる。家族と自宅に帰ったり、美容室、墓参り、外食など気分転換を図っている方もいる。毎日、外気浴、日光浴をするようにしている。	行事担当が2~3ヶ月前に管理者に提案を持ちかけて、その後下見なども実施のうえ企画書として仕上がったものに基づいて外出に至っています。年間計画にはなっていませんが、初詣・花見・おさい公園・紅葉狩り(散歩は行けてませんが)隔日での外気浴は定着しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者よりお金を預かり、外出時に好きな物を買ったり食べたりしている。買ったお菓子を面会に来たひ孫にあげている方もいる。買い物を楽しみをしている方もいる。施設内でおやつを作ったりしている。月末に集計して、家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や本人の希望で携帯電話を持ち込み電話をしている方がいる。時々手紙を出している方もいる。毎月、絵手紙をくれる親戚の方がいる。12月は利用者全員が家族や知人に年賀状を出せるように支援している。家族の面会は頻回にみられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア、廊下、居室、トイレなど明るく、ゆつたりとした空間です。自分の居室がわかりやすいように好きな物を目印にしている。壁画は利用者が制作した物を飾り、七夕飾り、クリスマスツリーなど季節を感じられるようにしている。エアコン、加湿器を利用し、温度、湿度に注意している。ソファでもくつろいでいる。	放尿の症状がひどい利用者もいるとのことですが、臭いもなく清潔です。共用空間は折り紙細工を中心とした壁画が色彩豊かで、職員が三度笠姿で舞躍る場面を面会の家族も利用者と一緒に愉しむ様子からは、安寧が伝わります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの席は気の合う利用者同士配慮している。トラブルになった場合は席や居室を変える事もある。居室で過ごしたい方は居室で過ごす方もいるが、時々声掛けしている。ソファで談笑する方もある。つつじとくすのきの利用者も自由に行き来している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具、姿見、マッサージ機などがあり、配偶者や思いでの家族の写真、母の日に送られた品物が飾ってある。使い慣れた化粧水や化粧道具、髭剃りを使用している。居室の洗面所の蛇口は本人が使いやすい物に変えた方がいる。	「少し開けておきたい(安心のために)」という人の居室には段ボールで作ったドアストッパーがあり、また「よく転ぶ、ぶつかる」という人のベッド柵には布団を巻きつけて防具としてあったりと、職員の配慮が居室の至るところに見られます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全廊下には手すりが付いており、トイレにはトイレの絵を掲示しわかりやすくしている。手すりを利用し、下肢のトレーニングを実施している。くすのきとつつじの広いフロアと廊下を利用して、歩行練習をしている。体調の良い時、車椅子の方で歩行器を使用して歩行訓練をする方もいる。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296900083		
法人名	株式会社 健康第一調剤薬局		
事業所名	グループホーム こもれび (くすのきユニット)		
所在地	静岡県磐田市二之宮東21-4		
自己評価作成日	令和元年6月27日	評価結果市町村受理日	令和元年7月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.nhiw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&jiyosyoCd=2296900083-008&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和元年7月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物は明るく広く、フロア、廊下、居室などゆったりしています。1日の流れは概ね決めてあり、メリハリのある生活を送っています。認知予防に力を入れており、毎日工夫を凝らして行っています。車椅子の方も、歩行器を使用し歩行したり、手すりを持った訓練をやっています。毎月、行事担当職員が決まっており2か月前位から計画を立て、初詣、竜洋しおさいに行ったり、桜、つじ、バラ、紅葉を観に出掛け季節感を感じたり、夏祭り、運動会、クリスマス会、寿司バイキング、おやつバイキングなど楽しみのある生活が送って頂けるように考えています。管理者が看護師であり、協力医の先生と連携がとれており、看取りもおこなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

竜洋のしおさい公園への外出は、昨年までは市の送迎バスが使っているが、職員が刻みをする事で可能としました。ですが開設から4年となり顕著に重度化が進んでいて本年はそれも難しくなり、外出すると3分の2が車いす利用となつてはいます。それでも「季節を感じて～」「リフレッシュ～」との想いを職員総意で実現させています。また新人教育も整い、週毎に「おこなったこと」「できたこと、課題点」「指導者コメント」「週の振り返り」「次週の目標」と細目を1枚のシートにまとめた丁寧な伴走が叶っていて、事業所の定着率や先輩職員のOJT力強化につながっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念はグループホーム内に掲示してある。職員の心得は休憩室に掲示してある。職員は今年の個人目標を立て、7月、12月、3月振り返りし、管理者に提出しに面談の時話し合いをしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の防災訓練に参加した。又、地域の商店を利用している。秋祭りには、地域の屋台が施設内に入り、踊りを魅せてくれた。市民マラソンは、施設の前で応援した。ボランティアの方に慰問してもらっている。中学生の福祉実習も受け入れた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症とその家族が全国をマラソンして走るラン伴で磐田の中継所として利用者と一緒に応援した。管理者が掛川市で認知症の介護されている家族の会と女性の会の2回にわたり、認知症についての講話をした。その時実際グループホームでやっている対応の仕方を話した		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月に1回、民生委員2名、市介護保険課1名、包括支援センター1名、家族1名の方に出席頂き開催している。職員体制、苦情に対するの取組、医療体制、1日の流れなど、毎回内容を変えて、報告をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月市に入居状況を報告し、事業所連絡会に出席している。2年に一回、市の実地指導が行われている。昨年11月に2回目の実地指導が行われた。2回とも、指摘事項なし、助言事項なしと評価して頂いた。市から介護相談員が訪問している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言を掲示し、施設全体で取り組んでいる。身体拘束に関する説明書、経過観察記録を用意した。事故のありそうな利用者は、カンファレンスを行い職員間で統一を図っている。身体拘束委員会を、3か月に1回開催して意識づけをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設では、身体拘束について勉強会を開き、職員が周知徹底できるようにしている。利用者が入浴時は、観察し、内出血や傷に注意している。又、職員から報告をうけ確認している。介護記録には残している。入居者に対して、言葉遣いに気を付けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度は勉強したことはあるが、理解は不十分である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、本人と家族が施設を見学し、契約を交わす時も十分な説明を行い、理解、納得の上で契約を交わしている。加算を変更する時は、全家族に説明を行い、承諾書を頂いた後に変更している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、職員から家族に近況を報告している。面会、介護計画変更時家族から意見や要望を聞いている。相談、苦情として受付をし、カンファレンスを行い、解決案を出し家族に報告している。家族に対して依頼の一覧表を作っている。意見箱を置いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は普段から職員の意見に耳を傾けている。職員は年2回自己評価表、悩みを記入し、提出している。その表をみながら管理者は年2回職員と本人の要望や意見を聞き個人面談をしている。事故報告書や毎日のミーティングで改善案を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数の応じて給与の上乗せがあり、資格手当を支給している。昨年から定年を60歳から65歳に延ばした。時間外勤務がほぼない。個人面接の時、本人の良い所を話している。休み希望を聞いて全員希望通りにとれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内では、研修を毎月行っている。介護福祉士会より先生をお招きして勉強をする時がある。外部の研修に参加をしている。介護福祉士取得には、法人より実務者研修の費用の半分の補助がでている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は毎月、管理者と話し合いを持ち、施設内の困った事や職員について相談に乗っている。他のグループホームが同一法人になったので、少しずつ職員が研修に行き学んでいる。他の施設や介護で働きたい方の実習を受け入れている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は、本人の困っている事、不安な事、要望、入居前の様子を聞き、支援に結びつけている。入居時は本人の不安が強いので特に気を付けて対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時家族の困っている事、不安な事、要望を聞き、コミュニケーションを大切に何でも言ってくれる信頼関係作りに努めている。家族からも本人からもアセスメントする時、一つ一つ確認して。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向を聞き取り、その意向に沿えるような介護を心掛けている。サービスを導入する時、管理者と職員と担当者会議を行い、計画書に基づいて支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活のなかで洗濯物干し、洗濯物たたみ、テーブル拭き、食事の準備、コップ洗いなど本人の出来る事で役割をもって生活を送っている。毎月のレクでは、ケーキを作りなど入居者、職員一緒に楽しく作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来やすい雰囲気を作り、面会には沢山来てもらっている。面会時、家族との時間を大切にもらえるように居室にて過ごしてもらっている。毎月1か月の様子がわかるように、こもれび通信を発行している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、兄弟、友人、近所の方など面会に来ている。壁画にて、キーパーソン以外の方にも日常生活がわかるようにしている。面会に来ると見ている方は多い。行事にも家族に参加してもらっている。自宅に帰ったり、墓参りに行っている。外出、外泊、面会は自由。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置については気の合う利用者同士、状態の同じ利用者同士を隣席にしたり、トラブルがある時は席の配置を変えている。自由に席を移動し談笑する様子がある。話の少ない利用者には職員が声掛けを多くしている。全員が参加出来るレクを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した時はとてもよくやって頂いたと家族から感謝された。体調が良くなり自宅に帰った利用者が、2年経ち体調が悪くなり家族から入所出来ないか問い合わせがあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活の様子を聞いている。入居後、表情、行動、会話から感じた事は職員間で共有しケアにつなげている。定期的に介護計画書を作成前に本人と家族の要望を聞き、カンファレンスをし、本人に合った生活支援が出来るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの起床、就寝時間、職業、趣味、好きな事をアセスメントし、生活に取り入れている。今まで使っていた椅子やタンスなど使用している方もいる。食事前に挨拶をしてもらったり、縫い物が得意な方には雑巾やほころびを縫ってもらっている。入居前のサマリーを読んで把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設には、1日の流れはあるが、一人ひとりの病気や体力に合わせて臥床、離床している。夜間は居室の外にあるトイレは遠いけど居室にポータブルトイレがあれば排泄できる人はポータブルトイレに依っている。毎日バイタル測定しており、健康管理に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の意向を聞き取り、ケアマネと職員とカンファレンスを行い、意見を出し合い、介護計画を立て、ケアに繋げている。モニタリングも本人と家族に話を聞いている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は、日々の様子やケアの実践を記録し、職員間で情報を共有している。申し送りは、朝、夕2回行い、報告し、気づいた点は見直しをしている。さらに、変わった事は全職員に共有できるように連絡ノートに記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	発熱時は頻りに検温している。食事量が少ない時は、栄養ドリンクを飲んでいる。家族の要望で、お菓子を食べたり、ヨーグルトやヤクルト、黒酢、せんぶりを飲んだり、豆乳にコーヒーを混ぜて飲んでいる方もいる。おしゃれ靴を履いている方もいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公園や交流館に出掛けている。神社の初詣では近くの駐車場に止めさせてもらい、公園では、下見した時施設の職員から施設の近くに車を止めていいと言ってもらった。近くの公園に花見に出かけた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居と同時に協力医に変えてもらい、月1回定期的に往診してもらっている。協力医は休日、、夜間24時間対応できる体制を確保している。体調が悪い時は、連絡をし対応してもらっている。職員は全面的に協力医を信頼している。看取りも行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職はいつもと違つと感した時は、24時間看護師に報告し、支持を仰いでいる。細かな事でも看護師に報告し、相談している。職場内に看護師がいるので洗腸など医療行為がいつでもできている。皮膚の状態は入浴時に看護師に診てもらっている。褥瘡の処置を毎日している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時は訪問し、本人の様子を聞いてくる。又、情報提供をしている。退院時は退院カンファレンスに参加し医師、相談員、看護師、理学療法士から情報収集している。市民病院の研修に参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期は、利用者、家族の思い、生き方を尊重し、家族と協力医と事業所は話合いを持ち、本人、家族の希望と事業所で出来る合意の所で支援していく。協力医は、24時間対応できる体制をとっている。今年の看取りは亡くなる前に家族とお別れをした。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入所する時、全員に延命処置は望むが、望まないか、決めていないを選んでもらっている。看護師が職員に応急手当やADEやり方を研修で教えている。急変時は救急車を呼んでいるが、呼ぶか呼ばないか悩む時は、協力医又は施設長(看護師)に連絡して指示を仰いでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回磐田消防署立ち合いで利用者が参加し地震と風水害の避難訓練を行った。磐田市の福祉避難所となっている。昨年台風の被害で停電になり、施設では良い経験になった。ランタンを各自で用意してもらった。厨房と話し合いをした。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり性格も違い、抱えている不安も違うので、本人に寄り添った言葉がけを心掛けています。同じ事を何度もいったり、今した事を忘れますが、まずは否定せず、受け入れ、何度も説明をしている。排泄時トイレに鍵をかける方には、入らないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ希望に添えられるように心がけているが、時間が決められているものもあり、できないものもある。無理強いする事のないように、本人の意志も取り入れ入浴や臥床、就寝している。希望を聞いて行事担当が外出場所を決めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れがあり、皆と一緒にレクや運動をする時があるが、それ以外の時間は新聞を読んだり、テレビを見たり自由に過ごしている。その方のペースで生活出来るように昼寝したり、起きたり個々の対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性は、髭の手入れをし、女性は、化粧水をつけたり、眉を書いたりしている。本人の意志で服を選んでいる人もおり、毎日お化粧している人もいる。洗顔や服の着脱の介助を支援している。毎月美容師が訪問している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給仕、洗物を手伝ってもらっている。利用者全員でたいやきを作ったり、厨房から季節の行事食(おせち料理、恵方巻き、夏祭りの焼きそば、クリスマスの時チキン)魚の解体ショー、握りずしを握ってもらっている。ケーキを食べたり、すしパーティーやおやつバイキングをやった		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	腎臓長、カロリー制限長、刻み長、フド長、トロミを付けたり対応している。毎食とおやつので摂取量、水分を把握し、食事の様子を観察し、体調管理をしている。食事が食べれない時、高カロリードリンクを購入してもらい飲んでいる。体重も毎月測定し管理している。スプーンや箸もその人の合う物になっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食が一人ひとり口腔ケアを行っている。出来ない方には一部介助、全介助を行っている。スポンジブラシを使っている、出来る方にも声かけをしている。入れ歯は洗浄液につけている。訪問歯科で治療している方もいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に行った時間を記録して、どのくらいの間隔でトイレに行くかわかるようにしている。ウロウロする様子からトイレに連れていっている。Pトイレは夜間のみ3台設置し、日中は使用していない。夜間、頻尿の方は眠れない為眠剤を内服しているが変わらず。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、歩行訓練やラジオ体操を行い、腸の蠕動運動を促している。利用者は、それぞれ排便習慣があるので、回数、排便時間、性状など理解して、その人に合った介助をしている。便秘の人で朝、冷水を取ったり、ヤクルト、ヨーグルトをとっている。水分摂取は一日5回とっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	おむね曜日、時間は決めてあるが、本人の体調や都合により変更したり、拒否のある時は無理強いせず、曜日を変更している。又、入るのを拒否する人に対しては、入りたくなるような言葉かけや入るタイミングを合わせている。状態により、器械浴、シャワー浴、清拭をやっている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境の整備(居室の温度、湿度、灯り等)安眠できるようにしている。寒い日は、エアコンを付けたり、あんかを入れたり、乾燥時は加湿器を付けたり、洗面所に水を張ったりしている。利用者の体調に合わせて昼寝したり、自分で就寝時間を決めている。ラジオを聞いている方もいる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のカルテに薬の情報を入れ、副作用、用法、用量が見られるようにしている。薬の変更がある時は、職員全員にわかるように申し送りし、連絡ノートに書いている。個人の検温表の欄に薬の開始時期を記入している。薬は、同法人からもらっているの、薬の疑問は薬剤師に何でも聞いている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で洗濯干しや畳み、縫い物など役割をもってもらっている。家族や施設で外出、外食し気分転換を図っている。家族が面会時嗜好品を持ってきて食べている。好き嫌いな物を聞き対応している。パンをやめ、ご飯で対応している方もいる。ボランティアの歌、踊りを楽しんでいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣、花見、海をみたり、紅葉狩りなど季節を感じられるようにしている。外出時、自宅の近くをドライブすると色々な思いでの話ができる。家族と自宅に帰ったり、美容室、墓参り、外食など気分転換を図っている方もいる。毎日、外気浴、日光浴をするようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者よりお金を預かり、外出時に好きな物を買ったり食べたりしている。買ったお菓子を面会に来たひ孫にあげている方もいる。買い物を楽しみをしている方もいる。施設内でおやつを作ったりしている。月末に集計して、家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や本人の希望で携帯電話を持ち込み電話をしている方がいる。時々手紙を出している方もいる。毎月、絵手紙をくれる親戚の方がいる。12月は利用者全員が家族や知人に年賀状を出せるように支援している。家族の面会は頻回にみられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア、廊下、居室、トイレなど明るく、ゆつたりとした空間です。自分の居室がわかりやすいように好きな物を目印にしている。壁画は利用者が制作した物を飾り、七夕飾り、クリスマスツリーなど季節を感じられるようにしている。エアコン、加湿器を利用し、温度、湿度に注意している。ソファでもくつろいでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの席は気の合う利用者同士配慮している。トラブルになった場合は席や居室を変える事もある。居室で過ごしたい方は居室で過ごす方もいるが、時々声掛けしている。ソファで談笑する方もある。つつじとくすのきの利用者も自由に行き来している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具、姿見、マッサージ機などがあり、配偶者や思いでの家族の写真、母の日に送られた品物が飾ってある。使い慣れた化粧水や化粧品、髭剃りを使用している。居室の洗面所の蛇口は本人が使いやすい物に変えた方がいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	全廊下には手すりが付いており、トイレにはトイレの絵を掲示しわかりやすくしている。手すりを利用し、下肢のトレーニングを実施している。くすのきとつつじの広いフロアと廊下を利用して、歩行練習をしている。体調の良い時、車椅子の方で歩行器を使用して歩行訓練をする方もいる。		